

書き初め

一月十五日(月)～二十二日(火)まで、多目的ホールにおいて「平成三十年度校内書初め展」を開催し、全校生徒三十八名の力作を展示しました。十九日(土)の学校公開日には、たくさんのお客様の皆様にも見ていただきました。審査の結果、入賞者は以下の通りです。なお、入選者の作品は、「第五十二回 島根県書初め展」に出品します。
【教員】

ノーメディア啓発ポスター

海士町PTA連合会で取り組んだノーメディアデーの啓発ポスターコンクールの結果をお知らせします。今年度も、素敵なポスターを画いてくれました。今後も一日の限られた時間を有意義に使う力、『タイムマネジメント力』を子ども達に身につけてもらいたいと思います。
【教員】

スキー研修

一月十一日(金)～十三日(日)まで大山において一年生の希望者でスキー研修を行いました。最初は、遠慮がちだった生徒が練習して

いくにつれ、自分の思うように滑るようになるのと積極的にリフトに乗り、スキーを楽しんでいました。このような貴重な体験をさせていただいた海士町公民館の皆様感謝し、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

僕は今回のスキー研修で、生まれて初めてスキーをしました。はじめは滑ることができず不安でいっぱいだったけど、練習していくうちにだんだん滑れるようになり、とても楽しく滑ることができました。僕だけでなく、一年生みんなが滑ることができるようになり、みんなで中級コースまで行くことができ、良い思い出になりました。また機会があれば、スキーをしたいと思います。
【生徒】

子育てを考える 『啐啄同時』

『啐啄同時』という禅の言葉があります。ひな鳥が生まれ出るときに、内側からつついて卵の殻を割ることを

「啐」といい、時を同じくして、親鳥が外側からつついて殻を割ることを「啄」といいます。親子の共同作業で殻が割れ、ひな鳥が無事に誕生します。

親鳥が殻をつつくタイミングは、早すぎても遅すぎてもいけないのです。正にひなが生まれ出ようとするとその時に、タイミング良く適度な強さで殻をつついて誕生を促すことが親鳥の仕事です。

学校でもこのような場面(ドラマ)に出くわすときがあります。生徒が新たな自分に生まれ変わろうと、もがき苦しみながらも立ち上がろうとしている時、教師の言葉がけで自ら立ち上がり、一歩前に踏み出すことがあります。

我々親や教師は、子どもたちが新たな自分に生まれ変わろうとするその時、どうかかわるかが鍵になるのではないのでしょうか。
【真野】